

内側の光は外側の光

2025 年7月1日

読者の皆さん

グループルニマーの月、おめでとうございます。

時間が与えてくれる多くの贈り物、そのうちの一つは確かに、6月の後には7月がやって来るということでしょう。少なくともここ、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムで、夏のピークを迎えようとしている今、これが私の結論です。グルマーイの誕生月のお祝いを私たちはちょうど終えたところです。私たちはサッドグナ、つまり美德を学び実践しました。私たちは、現実の、そして心の中に思い描いたタンポポに平和を願いました。私たちは、自分の思考、言葉、行動に、スパシュタター、明瞭さを示すとは何を意味するか熟考してきました。

私はグルをお祝いすることが大好きです。それが私の思い通りになるとしたら、来月にも、再来月にも、そしてその次の月にもお祝いを継続するようにしたでしょう。でもある意味で、私は願いをかなえたのです。なぜなら、6月の後には7月が来て——そして7月（あるいは、もっと明確に言うなら、大抵7月に相当する、インドの暦で太陰月のアーシャーダの月）には、グループルニマーをお祝いするからです。

今年のグループルニマーは7月 10 日です。月が満月に到達する時であり、その完全性、全体性と輝きは、グルと弟子との関係性を象徴しています。古代インドに起源を持つお祝いであるグループルニマーにいつも私が心引かれる理由の一つは、それが弟子たちによって始められたものであるということです。グルへの弟子たちの愛、グルから与えられたものに対する弟子たちの認識、それらの恵みへの感謝から、この毎年グルのお祝いが生まれたのです。

数千年を経て、シッダ・ヨーガの道でグループルニマーを祝う準備をしながら、今この時代に弟子であるということは何を意味するのかについて考えを巡らせている自分に気づきます。もちろん、グルが授ける知識が永遠であるように、グルと弟子の関係性の本質も変わりません。この世界で生きていくのには困難を伴うということも、何も新しいことではありません。時々私たちが呼び起こしたくなる「古き良き日々」というのも、それが、10 年前、20 年前、あるいは 50 年前のことであれ、私たちが記憶しているよりも恐らくもっと困難で微妙な側面を持っていたでしょう。結局、人間の性質——私たちの善を求める驚くべき能力と、それとは相いれない気を散らすものに影響を受けやすいこと——は、ずっと変わらないのです。

私たちが生きているこの時代に特徴的なのは、私たちの気を散らせる手段が、その数においても複雑さにおいてもずっと増大してきたことです。多くの点で、私たちの注意は拡散してしまった——あるいは少なくとも、拡散しやすくなりました。そして、私たち皆の注意のこのような分散は、分断、さらには不和を助長します。皆が違うことを言い、違うことを聞いて、違うことを求めて主張すると、一つになることは困難です。

このような状況の中で、私は——そしてきっと多くの皆さんもそうだと思いますが——シュリー・グルに示された道を歩むことの特権と責任をひしひしと感じています。そしてグルがいることへの深い感謝を感じます。運命と良いカルマ、そしてシッダ・ヨーガの道を歩んだ私の家族の先見の明——それらが重なり、私はここへ、グルの足元へと導かれました。

今年、2025 年、グルマーイは私たちにこのメッセージを授けました。「あなたの時間をあなたの時間に値するものにしなさい」。弟子であることを体現する意味や、このグループルニマーの月を通して、グルをたたえる最もふさわしい方法を思い巡らしながら、私はグルマーイが私に与えてくれたものを成し遂げる決意を固めています。グルマーイが私の中に目覚めさせてくれたシャクティを——彼女のメッセージを実践することで——育みたいのです。

この決意を実行する一つの方法として計画しているのは、数年前のグループニマーの月でのグルマーイの教え、「シュリー・グル・ヴァチャン」を再び訪れることです。「シュリー・グル・ヴァチャン」は、グルマーイの九つの教えで構成され、それぞれが自分の時間を最大限に活用するためにできる具体的な行動を示しています。シッダ・ヨーガの道で行うあらゆる修行と同様に、その効果は蓄積され、そして普遍的です。時間との関係を変えてより良いものにすることは、人との関係や、私たちを囲む世界との関係にも連動する変化を促します。私たちはその変化を感じ、そして周りの人々も感じるすることができます。

シッダ・ヨーギとして、グループニマーとその日が持つ大切な意味を熟考するとき、マインドが行き詰まってしまうような瞬間があります。思考も言葉も急速に高まる思い——感情のようでありながら、それをはるかに超えたもの——の中に溶けていきます。それは愛。それは畏敬。それは感謝。それは、これらすべてが溶け合った素晴らしいものです。

弟子であることの一部は、この思いを表現することです。そう思いませんか？ それは、誰かにするように指示されたからではありません。そうするのが賢明だからでもありません。それは心の衝動だからです。この愛と献身のあふれる思いには、目的地が必要なのです。

私はこれまでも、神、グル、そして大いなる自己は一つである、というシッダ・ヨーガの教えに対する自分の深い関心について書いてきました。それは、グルを敬い、グル・シャクティをたたえるこの祝祭日、グループニマーの時期になると、しばしば考える教えです。一方で、私はサッドグルのダルシャンと教えを受け取るという幸運に恵まれていることが信じられません。それは、これからもずっと、私を驚かせ続けることでしょう。その一方で、それはこの世界で最も

自然なことでもあるのです！ グルマーイの存在を、自分の心と同じくらい近くに感じる時が、本当にたくさんあります。

それでも、こうした一体性を垣間見ることと同じくらい不思議なことに、私はトゥカーラム・マハーラージのようなインドの偉大な詩聖たちが語ったことにも同じくらい共感していることに気づきます。悟りを開いた後も、それらの聖人たちは自分が選んだ神に祈り、ある程度の分離の感覚を維持することを求めました。彼らは自分の神を崇拝し続けることができるように願いました。師と弟子、グルと弟子という生き生きとしたつながりを保ち続けたいと望んだのです。

そして、私がこの手紙を通して繰り返してきた問い——弟子であるということは何を意味するのか、そして、グルプールニマーの期間にグルをたたえる最もふさわしい方法とはどういうものか——については、さまざまな答えがあります。私は既に、グルの教えを実践すること、そしてそれがグルの言葉に私たちが価値を見いだしていることを直接的に示すものと述べました。加えて、私たちはグル・プージャー、グルへの崇拝を実践することができます。グルの名をチャンティングする時間やグルについて瞑想する時間を作ったり、グルとのダルシヤンの体験をノートに書くこともできます。そして、きっと多くの方が既に計画していることと思いますが、グル・ダクシナーに参加することもできます。

グルプールニマーの月には、シッダ・ヨーガの系譜にある3人のグル——グルマーイ、グルマーイのグルであるバーバ・ムクターナンダ、そしてバーバのグルであるバガヴァーン・ニッティヤーナンダ——への敬意を表します。ですから7月 21 日に、私たちがグルをたたえるもう一つの吉祥な出来事を祝うことは、ふさわしい、そして正しいことと感じられます。それは、バガヴァーン・ニッティヤーナンダの太陰暦のプンニャティティです。

バデ・バーバのプンニャティティは、彼が肉体を離れ、この世界を作り上げる大いなる意識と融合した日です。この機会に私たちが気づかされるのは、バデ・バーバはある意味ではこの世を去ったけれど、なおも生き生きと存在しているということです。彼の恩恵は、大気分子そのものの中に感じられます。

太陰暦のプンニャティティの月相は、欠けていく三日月、シヴァ神の髪に座すと言われるような、細い一片の光です。私はこれを、素晴らしく象徴的だと感じます。それに先立って私たちがダルシャンを受け取る今月の満月は、黒いベルベットの覆いの後ろになお存在しています。その全体を目にすることができなくても、それでもその光を目撃することはできるのです。

「神、グル、そして大いなる自己は一つである」。内側の光は外側の光です。たとえ時に分離しているように見えても——そして、私たちが献身をより豊かに表現することを可能にしてくれるので、その分離を「楽しむ」ことがあっても——そこには分離などありません。これは理解しにくい見方ではありませんか？ それが神秘の哲学なのです。そして、シッダ・ヨーガの道で私たちが祝う一つ一つの祝祭のたびに、神を思い出し体験する新たな機会のたびに、それが、私たちが立ち返る真理なのです。

心を込めて

イーシャ・サーデサイ

